

平成27年度 第2回座間市総合戦略推進懇話会 会議録

日 時 平成27年9月8日（火）9時30分～11時30分

場 所 ハーモニーホール座間（座間市民文化会館） 中会議室

出席者 市長（委員長）、企画財政部長（副委員長）、伊賀上委員、伊田委員、稲垣委員、井上委員、今福委員、鍛冶委員、川崎委員、川島委員、京免委員、黒田委員、黒部委員、鈴木委員、高橋委員、滝委員、星野委員、堀川委員、村山委員

事務局 小林企画財政部次長、山本企画政策課長、安藤係長、山本主事、古場主事、小西主事

傍聴者 2名

公開可否 公開 一部公開 非公開

議題 ・座間市総合戦略（案）及び座間市人口ビジョン（案）について
・質疑応答

資料 ・資料1：座間市総合戦略（案）
・資料2：座間市人口ビジョン（案）
・参考資料：基本目標毎のアクションプラン（国）と座間市総合計画施策との関連性

《 開会 》

（ 委員長 ）

原則公開となっているため、傍聴を認めるか

（ 委員 ）

異議なし。

(委員長)

傍聴が許可されたので、傍聴者の入場をお願いします。

(事務局)

委員 21 名中、芥川、長本委員が欠席し、19 名の出席である。過半数の出席により本懇話会は成立していることをご報告する。

会議録は公開とする。内容については、各委員に送付するため内容について確認頂きたい。

資料の確認。

遠藤委員長に進行をお願いしたい。

(委員長)

議題について確認する。変更のあった分について説明する。その後、質疑の時間を設ける。

特に変更された箇所について説明した。ご意見、ご質問を受けつけたい。

(委員)

今回は欠席したので、質問したい。総合戦略の計画期間は5年間であるが、その後も継続されるのか。人口ビジョンや総合計画の計画期間との整合性についてどのようになるのか。

(事務局)

今回、総合戦略の計画期間は平成27年から31年の5年であるが、その後も継続する予定である。総合計画は10年間で平成23年から32年までである。今回の総合戦略については、まち・ひと・しごと創生法が創設され、市町村はその作成に努めなければならないとある。県内全ての市町村で作成に取り組んでいる。総合計画においても、人口減少に伴いその指針を示す。本市の総合計画は、基本構想、実施計画の2つである。総合戦略は、平成72年の人口減少まで捉えて分析を行い、なぜ、人口が減少するのか、またそれに対してどう対応していくのかを公共、民間、金融等の全ての機関や地域一体となって協働で進める

(委員)

事業計画を出すとの事であったが、総合計画と一緒にものを作るのか。何か違う意味で総合戦略となるのか。端的に言うと、総合計画の実施プロジェクトに沿うような形で作ってはどうか。具体的な成果や結果の評価を図るにしても、漠然として後で困るので

はないか。

(委員)

子育て世代のアンケートが興味深い。特に子供の数の理想と現実というところで、現況は平均1.59人、子供を2人以上欲しいとしながらも、実際の子供の数との離れがある。経済的な事をクリアにすれば、自然増が見込まれる。国の方針でもあるように、他市と人口を取り合うのではなく、自然増で増やしていくことが一番の目標である。

そこでひとつ質問である。子育てアンケートでは、子育ての問題点は聞いているが、これからの世代や子育て世代にどういうことをしてほしいのかといった要望を聞くアンケートを行わないのか。

(事務局)

今回実施したアンケートの中で、子育てに不安を抱えている方に、何を充実して欲しいのかを聞いている。経済的支援や保育園の数などの要望が挙がっている。

(委員)

こういった市民の声を活かしていくという理解で良いか。

(事務局)

貴重なご意見である。どういった対策で要望に応えられるのか、この事業に張り付けていくことを考えている。

(委員)

国から示されている雇用という言葉について、良質な雇用、安定した雇用、魅力ある雇用という冠が付かないのかなど。今日明日の生活をなんとかするのではなく、子供を増やしていこうとなると、雇用がどうなるのかは大事だと思うので、みなさんの意見を聞きながら検討いただけたらと思う。そういう事で少し方向性が示せるのではないかと、という提案型の意見である。

質問である。看護師の奨学金制度をやっているが、貸付であるから返すのだけれど、例えば、座間市内の病院で働いた場合には減免などの優遇措置があるのかどうか。前回の懇話会で学生がたくさん居住しているとのことであった。奨学金を利用した場合、卒業後には結構な額が借金となり返していかなければならなくなる。例えば、将来、座間市に住んだり働いたりすれば、優遇措置や経済的な支援が何かできないものか、お聞きしたい。もしできたらいい。

人口ビジョンの中のグラフに関して、平成72年との記載はイメージがわきづらく分

かりづらいので西暦表示がよいのではないか。

(事務局)

ご提言についてお聞きしたい。人口ビジョンについても見やすいようにしていきたいと思う。

(委員)

大学生の奨学金について、貴重なご意見大変ありがたい。麻布大学もお金のない学生が多く、奨学金返済のためバイトして苦勞している者が結構いる。私たちの世代では、育英会の奨学金など公務員や教員になると返済しなくても良い制度があった。しかし、現在は、学生支援機構でさえ返済する形になっている。麻布大学では、八千代銀行と連携して、学生ローンという形で少し優遇する貸付を行ったりはしているが、審査等なかなか厳しい。若い人たちへの就学支援は、人材育成にも関わると思うので、座間在住の高校生や大学生について、支援や働く場を提供するなどやったらどうか。まだやるやらないではなく、色々なアイデアを出す場所である。金融機関の方もいるので、ご検討頂きたい。

(委員長)

忌憚のないご意見を頂きたい。それぞれの立場で感じていることを発言してほしい。

(委員)

子育てや高校生アンケートは非常に興味深い。子育てアンケートは公民館や支援センターで行ったとのことであるが、開票率はどれくらいか。どのくらいの方が子育てに関心を持っているか知りたい。

(事務局)

子育てアンケートは、職員が支援センター等に出向いて対面式のヒアリングを行った方法とアンケート回収箱を1ヶ月間設置して入れていただく方法で行ったため、開票率は分からない。

(委員)

実際に手渡してこれに回答した人数や拒否した人数ではどうであるか。

(事務局)

調査員によると、直接お願いしたおかあさん方には断られていないとのことである。

ヒアリングを実施したのが、支援センターで子供が遊ばせている時間に聞いたので、断られることは無かったと思う。

(委員)

アンケートは大変参考になった。短期的な問題としては、子育て関係や待機児童の関係がある。各市町村で老人ホームを利用した子育てと保育園の併合などマスコミ等でとり挙げられている。短期的にはそのようなところに力を入れてもらい、若い世代が住みやすい環境を作っていくのが理想である。長期的な問題としては呼ぶ施策の中で育児への強化が挙げられている。若者を戻すというか、地域に根付いてもらうということであるが、駅周辺の開発についてもなかなか進んでいない。将来的にイオンもできるので、その辺をうまく利用してコンパクトな開発されたまちづくりを長期的にやってもらえると、若い方がすごく住みやすいまちになると思う。緑の関係については大きく変わらない。海老名の真似をするということではないが、どこか座間市の核がないと、買い物等含め、相対的に外へ行ってしまう。市内でできるように検討してほしい。

(委員)

就学支援に関する意見はありがたい。地元の銀行として検討したい。質問であるが、今後、総合戦略については、施策等を掘り下げていくことになるが、全て同時進行というのはマンパワーや財源を考えると難しい。その中で優先順位については、どういったお考えか。

(事務局)

優先順位は設けていない。今後、施策を検討する中で、どの施策が有効なのか、PDCAでチェックしながら、効果性の高い事業を推進していきたい

(委員)

資料がだいぶ整った。神奈川県でもいよいよ施策の大詰めをむかえている。事業費が当初一兆円だったものが、実際には5000億円となった。交付金を獲得する上では、革新的な、人口増また自然増につながる施策を打ち出していないとならない。魅力的な施策展開をお願いしたい。

資料1について。5ページ。ここで他の地域ではおそらくないであろう視点があつた。郷土愛の醸成、これは非常に重要な視点だと思う。ただ、後に続く施策のなかに人づくりの施策としての支えがないのではないか。人を増やしてそこに定住し働いてもらう。数だけではなく、社会のインフラを整え、出産・子育て支援のルールづくりなど、実際に座間市でやる人を育てていかないと、街の活性化にはつながっていかない。特に座間

市は、海老名・大和といった人口が増えている都市に挟まれていて、転出が超過している点が気になる。そこを抑えるために、施策や人づくりをもっと前面に出して進める必要がある。

15ページ。基本として周辺都市との人口の取り合いではないというのはその通り。現実として、人口が定着していかない。取り合いではないが、魅力あることでここに住み着いてゆく。社会増になることで自然増も期待できる。取り合いをするのではなく、地域の強みを前面に出して行って、転入を促し定住化につなげる。転出抑制策、あるいは昼夜間人口のバランスをとっていく。取り合いが目的でないのは当たり前なので、あえてここに書かなくても良いのでは。むしろ、まわりから座間に来てもらえるような魅力的な施策を打ち出していくというような表現にしてはどうか。

資料2の61ページ 人口ピラミッドの平準化を目指すということ、これからますます長寿命化し、長生きできる人が増えることにより人口が維持できるという側面もある。人口ピラミッドを目指すのは、成熟した社会では、相当数の子供を増やさなくてはならず難しい。逆にいうと人口過多、過密型になって他の弊害が出てくる。成熟した社会では、段階を追って緩やかにカーブを描くような、少し寸胴型に近い形が理想とされる。各世代で偏りが無いようなかたち。ピラミッド型が平準化というのは、これからの長寿命化社会では表現に無理があると思う。

61から62ページにかけて。合計特殊出生率について、2060年に2.07を目指す。2040年にも早いところは達成し、2060年にはそれを更に上回るという数値を掲げている。そういう意欲的な数値もあるが、座間は神奈川県を若干上回っており、緩やかなシフトが必要である。2040年、2050年、2060年など、どのように出生率を推計したのか問われるのではないか。

これから数値目標をたてると思うが、アウトカムとアウトプット、アウトカムの指標を念頭に置きながら、どれだけやったかではなく、どれかやった結果この社会はこういう風に変わった、よい効果を生むということを探さないといけない。

(事務局)

郷土愛の関係。総合計画では、シティプロモーションの施策を新たに立ち上げ、市内外に効果的に広く伝える。座間市に住んでみたいという人を増やしていくため、そういう体制を整えることで検討しているところである。今までは、市の魅力について、それを集めて市内外に伝える体制が整っていなかったので強化していく方向である。

人口ピラミッドは、おっしゃるとおりであるため、参考にさせてもらいたい。合計特殊出生率は、総合戦略で密接に関係する数値である。総合戦略で検討した結果目指す、という報告である。2.07を満たせば、将来人口は減っていかないが、今後検討していきたい。

(委員)

資料1の6ページ、基本施策②では、おもてなし観光力の向上や観光拠点における環境整備の推進とある。座間として売りにすることは座間の水。座間市民の方でも湧き水の場所が分からないといった現状がある。こういうところを中心に説明したほうがよい。

人口ビジョンの24ページ。地区別将来人口の項目で、ニュータウン等と書かれているがどこか。

(事務局)

基本施策②は参考にさせていただきたい。

ニュータウンについては、言葉としては座間市にはそぐわないかもしれないが、一気に開発が進んだところを表現した。

(委員)

金融機関のこと。教育関係については、他の金融機関もそうであるが、金利を安くする、期間を長くするなどがある。それ以上の協力は難しいかもしれないが。アンケートをみると、若年層の転入が多く、就職や結婚、子育て期での転出が多いとのこと、これを踏まえなければならない。

しかし、良い所もたくさんある。在住者はずっと住み続けたいとしている。安心なまちとしての評価が高いとある。学生も希望として高く持っている。これはクリアしている部分ではないか。自然、景観が良いという意見もあったので、強みは活かして弱みは補填する。優先順位を踏まえていくと効果が大きいのではないか。感想である。

(委員)

資料1の6ページ。駅周辺の機能強化を図るとある。ずっと住みたくなる街ということで、駅前の周辺は非常に目に留まる所である。私どもの店舗が相武台の南口にあるが、商店街の歩道はきれいに整備されたが、線路までに繋がる道は雨が降れば水溜まりだらけである。駅周辺の強化であれば、整備が必要なのではないか。具体的な施策の中で決まっていくことであるが、もし決まっている所があればお話を聞かせてもらいたい。

(委員長)

都市計画の関係があるので、企画政策の方からでは答えづらいのでは。この場での回答はご容赦いただきたい。

(委員)

資料1の6ページ、「(2) 公共交通網の充実と広域連携」は分かりづらい。広域連携の意味が分かりづらい。市内の広域連携なのか、他市との広域連携なのか。意味のとり方が難しいのでは。総合戦略、その上位には総合計画がある。広域連携は防災等についても実施されている。広域連携という文言は大切に使ってもらいたい。この広域連携では意味がつかないのでは。

(事務局)

具体的事業を記載するなかで記載したい。実際に検討が進んでいるのは、県央地域での広域連携を考えている。

(委員)

2点ある。総合戦略6ページのおもてなし観光力の向上について。座間市には宿泊施設がない。ひまわりまつりや他都市の市議会の方が視察に見えた時も他市に泊まらなければならない状況がある。宿泊施設を何とかしたいと思う。他にもいろんな方がいらっしゃるのでご意見をもらいたい。

もう1つ。人口ビジョンの49ページ。子育て世代アンケートで、経済的負担については、医療費負担の軽減があるが、ぜひ進めてもらいたい。

(委員)

意見として。施策の方向性の基本目標「ずっと住みたくなるまちを目指して」はとても良いと思う。相模原地域づくり大学の取り組みで、地域のワークショップを行っているが、みなさんにとって環境が良いとはどのようなことですか、と聞いた時に、同じようにずっと住みたい町という答えであった。ずっと住みたい町が最初にあるのはすごく良いことであるし、郷土愛にもつながる。サステナビリティ、環境に配慮しながら経済と社会が世代間の構成を考えながら発展していく。これを具体化しているともっと良い。座間のゼットがここにあってよかった。

「ずっと住みたくなるまち」のところで、ひまわりや湧水が出ているが、前回の懇話会の後にひまわり祭りへ行ってきた。期待していた以上に、人が多く賑わっており、ザマオーレを買ってきた。観光地では、外から来てお客として帰ってしまうところがある。これを意味ある関係に繋げていくような手立てが何かないか。例えば、種はどうするのか。中学校で種を取ってどこかに送っているということであるが、種は食用や油になるし、素材や肥料などにもできるのでは。お金払って増やすのもよいが、来てくれた人に種をプレゼントするとか、次の身にある関係に繋がるものがないか。思いつきであるが。

勤務先の大学の図書館職員で、ざまりんが好きな方がいてざまりんのバッチをあげた。

その方は国立市出身で、進学の際におばさんが座間に住んでおり、そのまま定住している方。大学は戸塚、白金台と行っているが、図書館に働いてもなお座間から動かずにいる。すごく座間が気に入っている。座間市の図書館がすごく良い。景観で木立のある所があって、これからも住み続けたいと言っていた。これは、単なるひとつのケースかもしれないが、国立に勝っている。地元の人が分からないことに価値を見つけている人もいる。そういう事を見つけている努力をしても良い。休日に図書館にいて、お茶の飲める場所がほしいとのこと。出会いの場所にもなるようなことを考えては。

奨学金の話であるが、眼鏡チェーンのオンデーズという会社では、社員に対して奨学金返金救済制度があり、給料に返済分を上乗せする制度があるとのこと。あまりやっている所はないので、事業者のみなさん、検討するとニュースになると思う、市役所も検討すればニュースになるし、若い人がこぞって座間の試験を受けるのではないか。金融機関でも検討してほしい。

(委員長)

ご意見として受け止めたい。

(委員)

アンケートにみても分かるように、水、自然は座間の宝である。基本目標3の基本施策②の(2) 駅チカ住み替え支援の充実とある。駅チカにそういう事例あるとよいが、文章を読むと、郊外戸建空き家への住み替え支援の話が入っているため、何を言いたいのかわからない。

(事務局)

駅チカという言葉は、駅近接のこと。例えば、子育て支援センターや保育所の整備、地域や高齢者等の人材活用などを駅チカで展開したいと考えている。現実には、座間駅のホシノタニ団地の取り組みや空き家リフォーム支援も考えられる。

(委員長)

文言等についても整合性を図っていく。

(委員)

座間の強みについては、ネガティブな面ではなく、駅の周辺があまり開発されていないことは強みではないか。知り合いに聞くと、利便性というのであれば保育園は駅に近い所が良い、しかし、駅周辺は開発されているので、その用地がなくマンションの一室のような所でやっている。子供のことを考えると、広い所が良い。座間市は駅前が開発さ

れていないので可能性があるのではないか。この計画は、40、50年単位で見るため、今後の見通しを見ると、これはメリットなのではないか。駅の周りには何が必要なのか考える良いチャンスではないか。意見である

(委員)

市民がどのようなことを望んでいるのかを見る良い資料になっている。特に54ページの住みたい理由や、50ページの子育て支援サービスのこと。不満なところなどは改善していく。

高校生アンケートは、さらに掘り下げて、小中学生も大切な存在であることから、郷土愛を持てるように教育しなければ。ずっと住み続けたいくなるようにしたい。

(委員)

資料2の37ページ。財政は大きな問題である。人口が減ると生産年齢、雇用が少なくなり税金が減る。171億が117億まで減るとなっているが単年度で見た場合も想定されている。公共施設は建て替えのサイクルがやってくる。新規設備や整備は難しい。長寿命化に対する施策転換が求められる。これまでも人口減少や高齢化が起きていたが、これからは短期間で起きる。座間単独でなんでもやろう、はできなくなっている。使えるものは、近隣都市の財産を使った方が良い、コンパクトシティの概念は座間にとって欠かせない。財源も厳しくなるので、民間活力は当然であり、利用者の負担など自助・共助・公助という考えがあるが、利用者に対して負担を求める事が必要となる。また、これに対する危惧文化を醸成することが大切である。欧米からみると日本人の危惧に対する考え方は弱い。実際に行動に移すため役割分担で考えてよいのではないか。

国や県の施策について統一に考えないと。考えてほしいのはロボット産業特区である。座間のものづくりにあっている分野でないか。神奈川は生活や産業ロボットである。座間もロボット産業特区に入っているなので、その施策展開を強みの中で活かしてほしい。

(委員)

委員が言っていたこと。資料を見ながら、座間市のことを何も知らなかったと思った。自分ができることはなかなかないが、座間市は幸せなんだと感じる。高校生、子育てママアンケートをみると暖かさが伝わってきて、座間市は良い所だと間接的に分かった。

座間市が当番市を何度かやったことがある。100人を集めてイベントをするものである。緑と山と川と水があるが、見てもらえる場所がないので厚木の方にゆずった。ずっと前にホテルがほしいと思っていた。すぐとは言わないが、何かの時に。大きな会が開催できないのは、食事ができないこと・交通の便がある。宿泊できる所があると良い。今までにできなかった理由はあるのであろうが、横浜まで行かなくても座間市に宿泊施

設があるとよい。

(委員長)

ご希望として受け止めたい。宿泊施設は、公共で用意するものではないが、あくまでも民間力が経済原理に従って、魅力をもって置いて頂けるような街にする。座間の魅力をつくっていくことが座間の役割である。

(委員)

年寄りに関する記述が少ない。高齢者の問題は悩み事であるし、お金がかかることではあるが。

(委員長)

多様な貴重なご意見を頂いた。これを踏まえて案について高めていきたい。

(事務局)

第3回懇話会は9月30日(水) 13時30分からサニープレイス座間3階の研修室で開催する。

《 閉会 》